

各地区情勢報告（2019年4月25日）

地区報告者	報告概要
東京地区（山岸常任理事）	<p>棒鋼部会（鉄筋・直送）3月の販売は決算期ということもあり比較的よかった。電炉メーカーではコストアップ要因のある中、スクラップが弱含みのまま連休に入るのではないかと。ボルト不足が更に深刻になっている。オリンピック需要は終盤に入ってきた。スクラップ価格が弱含みでゼネコンから値下げ要求も出ているが、GW後も市況を維持して販売していかなければならない。</p> <p>（構造用丸鋼）産機、工作機械は調整場面である。店売りの荷動きが悪く低調。市中在庫もタイト感なく、出荷減、入荷増になっている。市況は横這いに推移している。4月に入っても荷動きは悪い。3月のスクラップ市況は横這いだったが、一旦様子見状態である。4月のスクラップ市況は下げ基調である。輸出相場が下がっているのが原因。メーカー供給は潤沢だが5月連休前後がどうなるのか心配である。</p> <p>形鋼部会（形鋼概況）3月販売量は前月比、前年同月比ともにマイナス。4月に入っても荷動きは悪い。品種別にみても、コラム、軽量C形鋼以外はすべて販売減であった。三次店向けの販売は、当用買いに徹している。物件はあるものの出件の荷動きは膠着状態である。一次加工は建築関係中心に忙しいものの小口短納期である。土木関係は落ち着いている。チャンネルの引合いが増えている。ボルトは月を追うごとに納期が悪化し、工期遅れが目立っている。4月に入ってから販売は前月比変化なし。物件に対してかなりのネゴがあり、4月、5月は下値が出て来そうである。スクラップは3月後半からジリ安傾向になっている。</p> <p>（一般形鋼）電炉メーカーも値上げを目指していたが、据え置きになっている。スクラップ、副資材などのコストを考えると需要が反転次第、さらなる値上げも考えられる。在庫は過剰気味。輸送面でのコストアップも考えると適正マージンを確保するため市況改善に努めていきたい。</p> <p>（H形鋼）「ときわ会」のH形鋼の3月末在庫量は前月比で5.0%増の21万8800トンと4カ月連続で増加した。2015年4月以来、4年ぶりの高い水準となった。特に関西地区での在庫増が顕著で、メーカーの長期休暇前の契約残消化、年度末出荷の促進などが影響した。関西の方で安値も出ている。形鋼部会調査結果において3月H形鋼は前月比、入荷が7.6%増、販売が8.3%減。在庫9.7%増であった。販売量は前年同月比でも著しく減少している。建築関連は堅調で、中堅大手ファブは2019年度の仕事は確保している。中小物件で図面遅れ、ボルトの手配遅れが生じている。土木向けの出荷は好調である。</p> <p>（C形鋼）定尺販売に大きな動きはない。加工販売の明細はどんどん入ってきている。但し、昨年秋の様な加工先に苦勞することはない。明細を随時こなしていく感じで、比較的好調である。地方の3次店、ユーザーは購入意欲がなく、在庫の積増しを頂くことは難しい。加工絡みの販売が多く</p>

なっている。連休明け後の物件話も出ているので、市況維持に努めていきたい。

(コラム)大径角に関してはロール申込みが前提で納期にいまだ3～4ヶ月かかる。一般的なサイズはメーカーから順調に入ってきている。コラムの加工にしても大径角を使わないものに関しては価格を下げないようにしている。相場を維持して連休を乗り切りたい。

薄板部会(薄板概況)稼働日は1日多いが、3月の販売が厳しかった。空調ダクトは堅調。住宅は増税前の仮需ではなく増税後の方が安くなるのではという話もあり盛り上がり欠けている。ゲーム機関係ではUFOキャッチャー関連が出ている。インフラ関係、燃料蓄電池関係の仕事がある。薄板三品在庫は2月末が440万8千トン。23万6千トン増えている。この数字は異常値に近く、タイト感が全くない。価格はなんとか踏ん張っている状況。在庫軽減促進価格の様な安い価格が出てきている。高炉メーカーの強気姿勢は変わらず、下期、値上げするなどの話も出ている。流通は弱気姿勢で儲からない状況が続いている。輸入材にも安値が出ている。需要家の業種、品種によっては中国材を使用するマーケットもあり、全体的なマーケット状況をみて高炉メーカーも生産調整してほしい。中国、韓国などの輸入材で賄えるものを探してユーザーも勉強し購入している。

(表面処理鋼板・店売りの状況)薄板三品在庫が示すように危険水域に達している。4月初め、港には10隻以上、輸入材を卸すところがなく滞船していた。さらにGW、販売先が休みだが、高炉は稼働するため、高炉の置き場、流通の置き場、中継基地も在庫が一杯であり、置き場がない。多段積み、安全通路まで原板、製品を置かなければならないケースも出てくるのではないかと。4月はGWまでの駆け込み需要で前月より増える予想だが、GW後、在庫は更に過剰になり販売は苦戦する模様。市況も弱含み傾向である。今後、高炉メーカーから更なる値上げが要請されるみたいだが、流通各社は更に在庫が膨らむと高炉メーカーとは逆に価格は下がることになるだろう。せめて止まっている物件が早く動き出す手立てを行政にお願いしたい。

厚板部会(厚板概況)雰囲気が悪い。斑模様。産機堅調、建機は概ね堅調だが先行き不透明。建築はひと段落で端境期である。土木、素材販売は低位安定。敷板は低調で価格も下落傾向で厳しい状況である。3月売上数量は2月比横ばいだが、雰囲気悪い。メーカー動向は紐付き優先、店売りはあと回しである。高炉メーカーを中心に値上げアナウンスもある。電炉メーカーの市況は横ばい。市中ではこれ以上の値上げは難しい。地方の二次、店三次店は当用買いのみである。物件などでは、今後しばらく様子見状態が続き先安感を期待している。これから高炉メーカーの定修も集中してあるので、在庫調整されていくのではないかと。今後、メーカーの生産、海外市況、スクラップの下落、輸入材の動向がどのような影響を及ぼすか懸念している。

(厚板定尺) 荷動きは低調で、中板では9ミリ12ミリの厚物は低調な荷動きである。2月3月とメーカーからの入荷が順調だったため、ここ2ヶ月で2割以上在庫が増加している。定尺品は荷動きの状況が掴みづらいが、がんばっていくしかない。

(コイル中板) 3月は前月比日当りで横ばい。4月の予測としては微減になるだろう。トラックはインドネシア向けが減少。中国、タイ向けは横ばいの生産予定。某トラックメーカーでは4月生産は3月比8%減、5月は3月比4%増の予定である。建機は横ばい。小型建機については、油圧部品の調達難の関係で3割位落ちている。建築関係でも免振関係の仕事が4月に入り半減している。店売りは市中在庫が多い。現在、ユーザーも当用買いに徹している。在庫が増えている関係で3月頃から価格を下げて売込みしている企業も見受けられる。安いコイルはないにもかかわらず、メーカーは契約残をみて在庫調整をしている。市況は横這いで推移している。

(縞板) ほぼ横ばい。店売り販売は迫力がない。下行程絡みの小ロット短納期中心で数量は伸びない。首都圏再開発物件、物流倉庫、システム建築などの仕事が出ている。5月の連休明けから、お盆明けにショッピングモール物件が出てくるのではないかと。素材販売、店売り販売は低調である。鋼管部会(鋼管概要) 鋼管という品種は他品種が良くなった後から暫く経ってやっと良くなるような品種である。3月のD I値を見ても需要自体ぱっとしない状況であった。前年比、前月比、横ばいか悪いという状況があった。昨年が良かったということもある。従来、年度末は需要が増加してくるが、今年の3月は悪かった。自動車は横ばい。トラックは高位横ばいで、一部のメーカーでは昨年夏より生産が落ちている。建設機械も大型、中型、小型の車種や分野によって斑模様である。中国向けの建設機械が落ちている。プラント向けはぱっとしない。価格は横ばいで推移している。

(高炉品) 3月は年度末で振るわず、前月比5%減、前年同月比10%減。詳細は相変わらずひも付きの建産機、自動車は堅調に推移している。土木向けの杭は季節要因で、出荷が落ち込んでいる。店売り販売は年明け、月を追うごとに悪くなっており、出荷減で在庫が増えている。市況はなんとか維持しているが、メーカー販売は強気姿勢である。メッキ品は遅れが生じている。ガス管(白)は需要見合いではなく、メーカー要因で不足ぎみである。自動車関連は今後も堅調。設備関連は少しずつ動き出している。下期も続く見通しである。店売りの不透明感が強い。今後は市況維持に努めていく。

(溶協品) 3月の店売り販売は低調のまま1ヶ月が過ぎてしまった。今年に入り、月を追うごとに悪くなっている。4月前半の状況も停滞感が続いており、流通は弱気姿勢である。

メーカーは強気姿勢で値上げ交渉もあり、流通は現状耐えている状況。自動車のスバルはフルモデルチェンジがあり、一時期の低調からは上向いている。鋼製家具は箱物が建っているため夏頃までは堅調に推移するだろう。

	<p>う。農業資材は地方の長野、山梨方面の仕事が出ている。中小物件が少なくなっているため不安材料はある。6月から秋にかけて仕事が出てくる話もある。加工は順調に明細が入っている。黒ガス管250A以上が不足ぎみ。一部のサイズなので商売には影響ない。角パイプも店売り低調で、先月も追加明細が入らなかった。歯を食いしばっていきたい。</p>
<p>大阪地区(森下常任理事)</p>	<p>全般的に各品種とも需要は減少傾向と言える。</p> <p>(異形棒鋼) 3月の出荷は悪くなかったが、スクラップが調整局面に入り、メーカーの売り越しも強く市況は横ばいに推移している。</p> <p>(平鋼・角鋼) 荷動き、市況とも横ばいを保っている。</p> <p>(構造用丸鋼) タイト感がなくなった。自動車、建機向けは好調を維持しているが、店売り主体の工作機械、産業機械は停滞気味。店売り向けは4月以降、販売状況が悪くなってきた。中国の落込みもあり工作機械、産業機械の減少も懸念される</p> <p>(H形鋼) 3月売上数量は日当りにすると悪かった。4月も引き続いている。ハイテンションボルト不足が商売に大きく影響しており、需要は減少傾向である。3月在庫は前月比大幅に増加している。契約残は減少しているので、今後、4月以降は減少していくのではないかと。</p> <p>(一般形鋼) 商売に迫力がない。契約残が増えているので在庫減少には時間を要するのではないかと。形鋼類は現状維持が精いっぱい、今の需要では値上げ転嫁は難しい状況である。5月以降も4月と同じ状況ではないかと。</p> <p>(薄板) 自動車は堅調。配電盤関係は人手不足で工期遅れが出ている。公共物件は堅調。冷蔵庫、洗濯機の生産量は増加。ルームエアコンも増加傾向。建機は油圧ショベルなど堅調。工作機械は大幅減で特に中国向けである。4月以降も自動車、建機は堅調で家電では照明機器などが好調である。建築関連ではボルト不足、人手不足と薄板三品在庫の高水準が懸念材料である。</p> <p>(厚板) シヤリング溶断関係は仕事の落込みが見られる。産機は盛上りに欠ける。建機は堅調。</p> <p>(鋼管) 建機は堅調な見通し。店売りは横這い。造船の新規受注は少し筒回復している。建築関係では大型物件が好調だが、中小物件が不調。ボルト不足の影響である。土木、鋼管類は好調。角パイプの溶協品は価格転嫁できているが、高炉品のシームレス管の価格転嫁に急いでいる。製造業関係では産機と店売り分野で減少傾向なのが懸念材料である。</p>
<p>愛知地区(早川常任理事)</p>	<p>製造業向け、産機、建機、工作機械は品種や向け先によって状況が違い斑模様の様相である。</p> <p>(異形棒鋼) 建築は好調。大型案件は出ている。中小案件も昨年並みで推移している。</p> <p>(構造用鋼) 工作機械は斑模様だが、仕事自体はある。建機は忙しいところと暇なところと斑模様。</p>

(条鋼) 大型案件に支えられている。中小物件はやはりボルト不足の影響が出てきている。

(一般形鋼) 建築の大型案件では大幅増加となっている。中小案件は販売数量だけをみると増加している。

(H形鋼) 販売数量は好調だが、ボルト不足の不安がある。6月頃から中小案件が動きだす。

(薄板) 昨年8月から販売数量減が続いている。3月の販売は前月比横ばいであった。在庫在庫は増加している。自動車向けは小ロットものが減少している。建機は減少傾向。工作機械も不調。建築も中小案件が低調。

(厚板) 建築系厚板は仕事自体あるが、ボルト不足の影響もあり、目先の仕事が受けられない状況。溶断業者の仕事量は大きく落ちこんではいないがパッとしない。工作機械、産機の需要も盛り上げを欠いた状況が続いている。

(鋼管) 中径角、小径角の販売が特に減少している。店売り向けは減少している。構造用鋼管も販売も減少している。高炉管は微増だが、タイト感はない。住宅は6月迄横ばいで推移するだろう。鋼製家具2月半ばから仕事が低調、繁忙感がない。工作機械は変わらず高水準、建機は横ばい。自動車は堅調に推移する予定だが、モデルチェンジで使用変更の影響が出てくるのではないか。